

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
----	------	----	--------

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	有	申請総企画数	2企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しても、複数の企画を実施可能
--------------------	--------------------------

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	こうふうかい 皐風会		団体ウェブサイトURL http://www.koufuukai.net/
	代表者職・氏名 代表 小島英明		
制作団体所在地	〒 164-0003	最寄り駅(バス停)	東京メトロ東西線「落合駅」 (関東バス「落合駅」)
	東京都中野区東中野4-30-18 リビオ東中野地下1階 小島能舞台内		
電話番号	03-6383-2262		
ふりがな 公演団体名	こうふうかい 皐風会		団体ウェブサイトURL http://www.koufuukai.net/
	代表者職・氏名 代表 小島英明		
公演団体所在地	〒 164-0003	最寄り駅(バス停)	東京メトロ東西線「落合駅」 (関東バス「落合駅」)
	東京都中野区東中野4-30-18 リビオ東中野地下1階 小島能舞台内		
制作団体 設立年月	1919年9月		
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等
	<ul style="list-style-type: none"> 代表:小島英明 副代表:栗原幸江(幹事) 会計監査:小倉親子(公認会計士) 事務局長:小島 清(観世流門下) 		(1)団体構成員 役員8名の他、企画制作1名、会員82名、計89名。芸術団体数4 (2)加入の条件 観世流(能楽)宗家より免状を許された取得者。コーディネーター等。
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名	小島美樹

経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	尾藤文隆(税理士) 小島美樹(経理担当)
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	koufuukai@office.email.ne.jp		

制作団体沿革	<p>当会は1919(大正9)年、能楽師観世流シテ方の小島曙光(現代表・能楽師観世流シテ方・小島英明の祖父)が設立。その後能楽師観世流シテ方の小島芳雄(現代表の伯父)に引き継がれ、2000年、小島英明が受け継ぎ、代表となって今に至る。東京を中心に全国各地で本格的な演能、蝋燭能、薪能を企画実施する一方で解説付能公演やワークショップ等の初心者向けの講座も積極的に企画、開催している。20また日本各地で能楽愛好者の指導も長年行い、能楽の普及・発展に力を尽くしてきた。特に文化庁の委託事業としては、九州国立博物館(大宰府市)にて、能楽ワークショップを無料で開催。中野区と白石市(宮城県)で「伝統文化こども教室・能楽」を実施し本年度で22年目となる。「伝統音楽普及促進支援事業・先生方のための能楽講座」(7ヶ年継続)を東京と宮城の2か所で実施。「文化芸術による子供育成総合事業」他、2023年度も含め多年にわたり実施した。2022年度補正予算事業・子供のための文化芸術鑑賞・体験再興事業を7公演実施。2010年には「小島能舞台」が完成。阜風会の活動の本拠地として「能楽」の講座はもちろんの事、伝統文化の発信地とするため、新たな活動を企画運営している。2014年には当会代表小島英明が重要無形文化財総合指定保持者の認定を受ける。2019年に設立100周年を迎えた。2021年、文化庁アートキャラバン事業において「日本全国能楽キャラバンIN宮城」(宮城県白石市碧水園能楽堂)での観世流公演の企画制作を担当し実施した。</p>		
学校等における 公演実績	<p>本会の代表である小島は、芸団協主催「伝統芸能に触れる授業プログラム」や日本財団助成事業「中・高校生のための能・狂言鑑賞教室」、東京未来塾(東京都教育委員会主催)、「文化庁伝統音楽普及促進支援事業」の各講師を勤める経験を通じ、学校において児童・学生を対象とした伝統芸能や音楽を鑑賞し実際に触れる機会をつくる事、能の鑑賞者育成の重要性を感じ、当会の活動課題の一つと位置付け活動してきた。「能」を解りやすく、興味を持ってもらうように、且つ「本物の伝統が持つ力」をきちんと伝える事を大切にしてきた。テキストや動画も活用し、公演としての内容に細部にわたる工夫を重ね内容の充実にも努めている。宮城県白石市白石中学校では、毎年ワークショップを無料にて実施(2023年再開)。一方で教員研修などの講師も各所で勤め、多角度からアプローチしている。</p> <p>【公演実施校例】・2017年10月 「羽衣」 都立科学技術高校にて解説及び公演実施。 ・2019年4月 「羽衣」 私立 横浜女学院高等学校にて解説及び公演を実施。 ・2019年11月 「羽衣」 横浜市立緑が丘高校にて解説及び公演「羽衣」を実施</p>		
特別支援学校等における 公演実績	<p>・2007年8月 佐賀県立金立特別支援学校にてワークショップを無料にて実施。 ・2019年10月 東京都立町田の丘学園(特別支援学校)にてワークショップを実施。 2020年、2021年も予定されていたが、新型コロナウイルス感染拡大のため、中止。</p>		
参考資料の有無	申請する演目のWEB公開資料	無	
	※公開資料有の場合URL	「No.1別添」に記載	
	※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID:	
	PW:	「No.1別添」に記載	

リンク先	No.1	【公演団体名 梟風会 】
項目内容	狂言『盆山』 https://vimeo.com/757580891 能『土蜘蛛』① https://vimeo.com/757568960 能『土蜘蛛』② https://vimeo.com/757571998 【パスワード:koufuukai】	

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 阜風会】

対象	小学生(低学年)	○				
	小学生(中学年)	○				
	小学生(高学年)	○				
	中学生	○				
企画名	能楽の面白さを体験してみよう！ 半能「土蜘蛛」と狂言「盆山」					
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>「狂言+能」2つの異なる芸術表現を「知る(解説)×観る(鑑賞)×体験する」本公演。</p> <p>【第1部】本日のみどころ解説(当日プログラムに沿って解りやすく) ①ご挨拶 ②能楽鑑賞のマナーと本日の演目(狂言「盆山」と能「土蜘蛛」)についてのお話</p> <p>【第2部】狂言・能の上演 ①狂言「盆山(ぼんさん)」 ②能「土蜘蛛(つちぐも)」 ※新しい試みとしてプロジェクターとスクリーンにて舞台進行に合わせて各場面に対応したマンガを投影し、児童の鑑賞の一助とする。(字幕ではなくマンガにすることで、低学年の理解向上を目指す)</p> <p>【第3部】狂言を体験しよう！ ①ご挨拶 ②「狂言」とは？《狂言の基礎的なお話》 ③狂言独自の発声を体験(「動物の鳴真似」)や「泣き」「笑い」「擬音」など、構え(姿勢・すり足)を体験(生徒全員)。 【第4部】能面のペーパークラフト解説</p> <p>【第5部】アフタートーク及び質問コーナーとご挨拶</p> <p style="text-align: right;">公演時間 90～100分</p>					
著作権、上演権利等の許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名			
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況			
演目概要	<p>■狂言「盆山(ぼんさん)」:盗みをしようとした者が主人に見つかってしまう。隠れた盗人は犬や猿の鳴きまねをしてみますが、主人に「鯛の鳴き声は？」と聞かれ困ってしまう。「滑稽性」という狂言の特徴的な要素を解りやすく表現した曲。</p> <p>■能「羽衣(はごろも)」:松にかかる美しい羽衣を見つけた漁師・白龍。家宝にと持ち帰ろうとするが、そこへ一人の女性が現れて、「返して欲しい」と頼む。一度は返すことを拒む白龍だったが、返すことにする。女は天人であった。羽衣を返してもらった天人は世に名高い舞楽を見せて、天空へと帰っていくのだった。能が持つ世界観が「直感的」に伝わる演目であり、「初めて観る能」としても相応しい。</p>					
演目選択理由	<p>■狂言「盆山」の選択理由:曲中では、犬の「ビョウビョウ」、猿「キヤーキヤー」鳴き真似やバントマイム的な動きなど見どころが明瞭。子どもの耳にも心地よい擬音がたくさん表現され、その真似のしやすい特徴的な発声は子供の記憶に残り想像力を働かせるためには良い選曲であると考え。小学校6年生の国語の授業で「表現の学び」の教材として取り上げられている。</p> <p>■能「羽衣」の選択理由:「天女の羽衣」の有名な物語は小学校の国語の教科書に掲載されており、また中学校の音楽の教科書にはこの曲が取り上げられている点から教育的観点を重視。授業と共に立体的な指導も可能となる日本各地に古くから伝わる「羽衣伝説」をモチーフに描かれた能である。日本の歴史や風土にも鑑賞者の興味をむける機会として導きたい。</p>					
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	<p>事前ワークショップは「能の体験」+本公演当日のワークショップは「狂言の体験」。</p> <p>■公演当日でのワークショップ「狂言を体験しよう！」について ・狂言独自の発声を体験(生徒全員)。※犬や猿や鶯など動物の鳴真似(鑑賞演目「盆山」より)や「泣き」「笑い」「擬音」等 ・狂言の構え(姿勢)と運び(すり足)としぐさを体験(代表生徒)。 ・代表生徒10名に舞台上がって頂き、能楽師(狂言方)と共演。※緊張と高揚感を体感。「舞台からの眺め」などの実際に舞台上がった感想なども能楽師が生徒にきいていく。※事前ワークショップ「能の体験」の内容は「NO.3」に記載しております。</p>					
出演者	「NO.2 別添メンバー表」に記載					
本公演従事予定者数(1公演あたり)※ドライバー等訪問する業者人数含む	出演者: 18名 スタッフ: 4名 合計: 22名	運搬		積載量: 1.25 t 車長: 4.965 m 台数: 1台		
本公演会場設営の所要時間(タイムスケジュール)の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	
	11:30	11:30～13:00	13:00～14:40	10分	14:40～15:20	15時30分
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。						

本公演 実施可能日数目安 <small>※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)</small>	6月	7月	8月	9月	10月
	20日	22日	21日	19日	22日
	11月	12月	1月	計	167日
	20日	22日	21日		
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。					
児童・生徒の 参加可能人数	本公演		共演人数目安	10名～15名(能楽師と共演)生徒全員もあり。	
			鑑賞人数目安	会場の入場可能人数。1000人が過去最大。	



←体育館に舞台を設置した時のイメージ



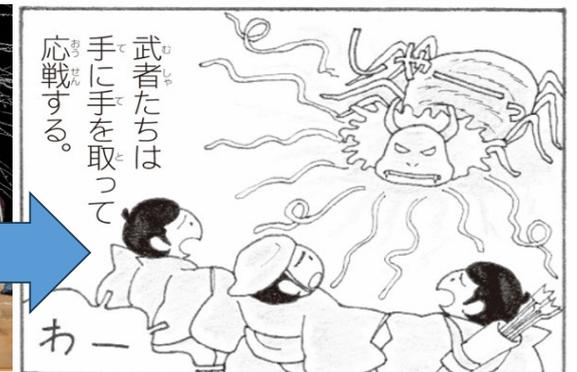
↑能「土蜘蛛」の様子(過去の当該事業にて)



↑能「盆山」の様子(巡回事業での写真ではありません)

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。



↑舞台上で演能している場面に該当するマンガを暗幕前に設置するスクリーンで同時に投影し、低学年にもわかりやすくする。(例:土蜘蛛退治の場面)

リンク先	No.2	【公演団体名	皐風会 】
項目内容	<p>■NO.2別添メンバー表 能楽界の中核を成す重要無形文化財総合指定保持者を中心に編成。 【出演者】18名(公社)能楽協会会員の能楽師(シテ方・ワキ方・囃子方・狂言方) ■事前講座「能」ワークショップ及び公演当日の解説《1名》 【シテ方】(観世流) 小島英明(重要無形文化財総合指定保持者) ■本公演当日の「狂言」ワークショップ及び狂言「盆山」の出演予定者《計3名》 【狂言方】(大蔵流) 善竹大二郎、大蔵教義、榎本 元他。 (和泉流) 深田博治、高野和憲、岡 聡史、内藤 連、中村修一、能村晶人他。 →【出演者の都合により左記より、計3名】 ■半能「土蜘蛛」の出演予定者《シテ方8名・ワキ方3名・囃子方4名 計15名》 【シテ方】(観世流) 小島英明、観世喜正、弘田裕一、駒瀬直也、中所宜夫、遠藤和久、奥川恒治、遠藤喜久、鈴木啓吾、永島 充、佐久間二郎、長山耕三、坂真太郎、桑田貴志、河井美紀、野村昌司、北浪貴裕、山中遼晶、馬野正基、長山桂三、谷本健吾、他 →【出演者の都合により上記より、計8名】 【ワキ方】(下掛宝生流) 森 常好、殿田謙吉、宝生欣哉、梅村昌功、大日方寛、則久英志、館田善博、野口能弘、野口琢弘他→【出演者の都合により上記より、計3名】 【囃子方】(笛方) 松田弘之、一噌隆之、八反田智子、栗林祐輔、小野寺竜一、藤田貴寛 他 (小鼓方) 観世新九郎、飯田清一、幸 正昭、鶴澤洋太郎、田邊恭資、飯富孔明 他 (大鼓方) 安福光雄、柿原弘和、柿原光博、亀井広忠、原岡一之、佃良太郎 他 (太鼓方) 桜井 均、吉谷 潔、梶谷英樹、小寺真佐人、大川典良、林雄一郎他 →【出演者の都合により上記より、計4名】 【スタッフ】 5名 (会場入りは4名) ■舞台設営スタッフ 《2名》 ■出演者補助・調整・連絡:小島美樹(※能楽についての専門知識を有する) 《1名》 ■運搬車ドライバー※人件費は運搬費に含まれる。《1名》 ■企画・監修:吉藤美紀(伝統文化コーディネーター・※資格及び専門的知識を有する)《1名》</p>		

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	会場の入場可能人数。1000人が過去最大
<p>ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p>■事前ワークショップは「能の体験」＋公演当日のワークショップは「狂言の体験」。 ※ 能楽師がオリジナルテキストにそって能楽を解りやすく解説する。オリジナルキャラクター「にゃんあみ」を「テキスト」と「動画・能楽堂案内」のナビゲーターとして登場させ、興味を持ってもらう。</p> <p>■事前ワークショップ「能楽を体験しよう！」において</p> <p>①ご挨拶(「礼に始まり、礼に終わる」挨拶の大切さについて理解を促す)</p> <p>②「能」とは(テキストに沿って能の基本的なお話)</p> <p>③動画「にゃんあみによる能楽堂案内」(会場の能楽師と掛け合うような構成。新しい試みでもある。)</p> <p>④参加者全員で「謡(うたい)」を体験(生徒全員)</p> <p>⑤「構え(姿勢)」「運び(摺り足)」を体験。実技指導を行う。(生徒全員)</p> <p>⑥鑑賞演目「土蜘蛛」の一部を能楽師とともに演じてみる。 a.鑑賞演目「土蜘蛛」より前場の「怪しい僧と源頼光との戦闘場面(斬り組み)」を体験、実技指導を行い、能楽師と共演(代表生徒)。 b.蜘蛛の糸を投げてみよう(代表生徒)。</p> <p>⑦能の楽器(四拍子:笛・太鼓・大鼓・小鼓)について体験してみよう(代表生徒4名)</p> <p>⑧能面に触れてみよう。 a.本物の能面をかけて摺り足を体験してもらう(代表生徒) b.能面を付けた時の視野の狭さを体験(生徒全員)。 c.本物の能面を近くで披露。角度によって異なった表情を見せる、能面の不思議な魅力を実際に紹介 d.かんたんなペーパークラフトに挑戦(生徒全員)</p> <p>能の特徴の一つである能面をペーパークラフトで作成(事前に用紙を郵送し作成してもらって当日持参でも良い)。新しい試みでもある。</p> <p>⑨質疑応答</p> <p>⑩ご挨拶</p> <p>※公演当日のワークショップ「狂言の体験」の内容は「NO.2」に記載しております。 「NO.3別添①～④」に続く</p>		
<p>ワークショップのねらい</p>	<p>■遠くても実は近い。能楽(能＋狂言)は難しくない。小1でもわかる内容に。</p> <p>・「能楽」は「能」と「狂言」という2つの演劇の総称であり、対照的な2つの芸能を一度の機会に鑑賞する事は、理解を深める上で効果的であると考え、ワークショップも「能」と「狂言」の両方を実施。</p> <p>・多くの生徒が「触れた事がない」「難しそう」と思っているであろう「能楽の世界」に対する壁を取りい、「能楽に興味を持ってもらうプログラム」をにすることを意図した。オリジナルキャラクター「にゃんあみ」を「テキスト」と「能楽堂案内」のナビゲーターとして共通して登場させ、解説者である能楽師(講師)と掛け合いをする。能のあらすじ紹介にはマンガを作成しテキストに導入した。様々な考慮し小学校低学年でも解る能楽を目指した。能面のペーパークラフトも新しい試み。工夫を重ねた。</p> <p>・「土蜘蛛との戦いの場面の再現」など、代表者の、生徒・児童が能楽師と共演する、想像力を働かせて「見えないものを見て」能・狂言を観ることの、楽しさ、素晴らしさを解説し伝えるよい機会としたい。また生徒全員が「謡(うたい)」や能独特の身体の動き「構え」「運び」身体を使って能楽を体感でき、参加できる構成とした。「能楽って遠いようで近い」と気づいてもらうことを大切にしたいと考える。その「気づき」が、日本の言葉、歴史、伝説、美術、音楽等の学習に興味を広げればと考えている。</p>		
<p>その他ワークショップに関する特記事項等</p>	<p>■スクリーンを持参して設置(学校のスクリーンを拝借できる場合も有り)</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;">  </div> <div style="flex: 1; text-align: center;">  <p>↑オリジナルキャラクター「にゃんあみ」はテキストと動画に登場し、能楽師と共にワークショップをナビゲートする。暗幕の前にスクリーンを設置。</p> </div> <div style="flex: 1;">  </div> </div>		

リンク先

No.3

【公演団体名

皐風会

】

事前ワークショップは「能の体験」



←楽器の四拍子を体験する



←能面を着けてみよう



←能「土蜘蛛」の戦闘場面を体験してみよう



←本物の蜘蛛の糸を投げてみよう

ワークショップ
実施形態及び内容

リンク先

No.3

【公演団体名

皐風会

】



←能面に触れてみよう

本公演当日のワークショップは「狂言の体験」



←狂言独自の姿勢や、発声、足の運びなどを体験

ワークショップ
実施形態及び内容



←狂言の動き「茸(くさびら)」を体験

テキストは解りやすく。あらすじはマンガで紹介

テキストは公演後も子供たちのそれぞれの手に残るものとして、その後も「音楽」「国語」「社会」「総合学習」の授業などで生かしてほしいという希望もある。また、当初は小学校でも中学校でも同じテキストを使用していたため、中学生には物足りない内容であることを考慮し、小学生用、中学生用でテキストの難易度を変え、適正を考えてそれぞれ作成する事とした。

→「能楽体験してみよう」ワークショップ用テキストの内容・小学生用・平成25年度版)

※中学生用版もあり。

※A4冊子・カラー版。全8ページ(表紙・裏表紙を含む)

※「ニャンあみ」という猫のキャラクターがポイントを絞って案内していく構成。ドリル及びクイズ形式で楽しみながら進行できるようになっている。

《内容》

- ・能楽の世界へようこそ
- ・能の音楽に耳を傾けよう
- ・能の装束と面に注目しよう
- ・能「土蜘蛛」の物語を知ろう(マンガで紹介)
- ・謡(ウタイ)をうたってみよう能楽体験してみよう

※「ニャンあみ」という猫のキャラクターがポイントを絞って案内していく構成。ドリル及びクイズ形式で

ワークショップ
実施形態及び内容



表紙、裏表紙:ナビゲーターにゃんあみ登場。 能楽師の正装、袴(かみしも)について
早速解説。

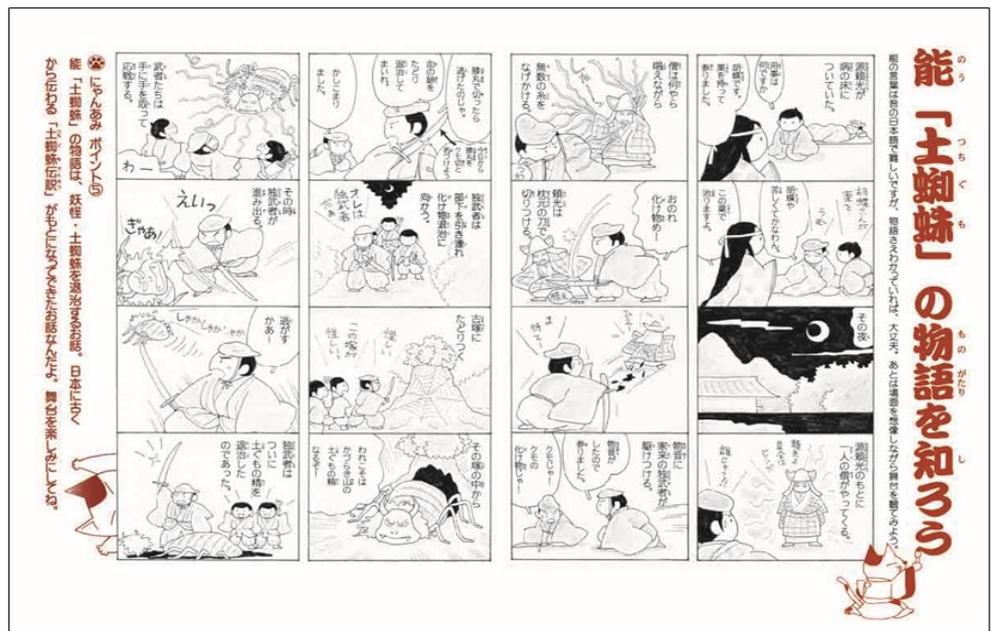
リンク先

No.3

【公演団体名

阜風会

】



↑ 6ページ～7ページ ※マンガであらすじ紹介

工夫を重ねる 能面(小面)のペーパークラフト

新しい試みとして能面のペーパークラフト案(A4サイズ)

※1年生でも作れるように、親しみを持てるように、にゃんあみを入れて紙面を再デザインする予定。

※事前学習のツールとしても有用と考える。

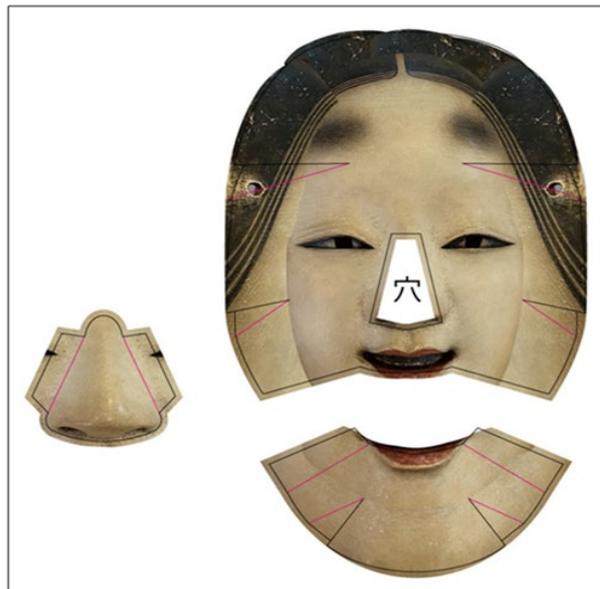
※切り取り線を制作順に色分けする。

※のりしろを大きく明記

※試しとして何人かの小学1年生の子どもに制作させてみたところ所用時間は約15分でした。

※中学生には、鼻の部分もある、さらに立体的になったものに挑戦してもらおうと考えている(下記)。

ワークショップ
実施形態及び内容



←この原稿をもとに、再デザインして子供たちにとってわかりやすく喜んでもらえるようなデザインとしてA4サイズ1枚に仕上げる

本事業への申請理由

【公演団体名

阜風会

】

①本事業に対する取り組み姿勢**【申請理由】**

「日本の伝統芸能」というと、「能楽」を思い出して下さる日本人はどれぐらいいらっしゃるだろうか。昨今では、鑑賞した事のない邦人がほとんどであるというのが現状である。能楽は世界もその価値を認める日本の誇る伝統芸能であるが、能楽は今、いよいよ危機的状況だと私どもは認識している。能楽は、650年という長い時間をかけて世代から世代へと一度も途切れることなく脈々と受け継がれてきた、他に類のない「生きた遺産」である。だからこそ、新型コロナ禍を乗り越えた今こそ、伝承者である私たちは、かつての継承者がそうであったように、どんな状況においても未来を見つめ、弛むことなく、怯むことなく、その活動を止めてはならないと考えている。何よりも大切なのは、子供たちが芸術に触れる機会を絶やすことなく、舞台を創り続けなければならない事だと考えている。子供たちの心に、芸術の「種」を蒔き、次世代への普及に努めてその「鑑賞者」と「後継者」の育成を計る事は、我々が担っている重責である。能楽を観た子が親となり、祖父母になるまで「サイクル」が構築されるような活動を根気強くコツコツと継続的に行っていく事が必要だ。すぐに「目に見える」結果が出るわけではない、時間がかかる。しかしながら、そうした活動こそが、伝統を紡ぐと思っている。自分が住む日本という国をそして文化を大切に思う子供の心をしっかりと育む。そういう「美しい心」を持った子供たちがやがて世界で活躍していく。芸術の力を信じて、その伝承者たる私たちの役割は、今、この時代において、決して小さくはないと思っている。だからこそ微力ながらこの事業の一翼を担いたいと、調書を提出させて頂いた。子供たちの中の「難しい能楽」を「面白い能楽」にする唯一無二の機会として、ワークショップと公演を私どもの積み上げてきた経験と工夫で力を尽くしたいと考えている。

【この事業に取り組むにあたっての姿勢】

■「能楽(能+狂言)」の二つの異なる演劇の魅力を伝えるために、ワークショップの構成と公演の内容、当日プログラム、使用テキスト等、子供たちの理解度を高めるように出来る限りの工夫と努力を重ねる。その上で子供の感性を信じて委ねる。

■何事も「想像力が大事」であることに気付いてもらう。能楽に触れることを通じて、見えざるものを見る「想像力」を持つことの大切さを積極的に伝え、子供たちのコミュニケーション能力育成のきっかけづくりをする。

■「能楽師」という職業を知る機会に。表現することの素晴らしさを感じてもらう。

■実施した学校の子供たち、先生、保護者の方々から、心温まる感想文や電話、手紙がよく届く。愛情と熱意が伝わってきたという声も頂く。励みにしている。当会は大きな団体ではないが、能楽を守りたい、普及したいという気持ちはどこにも負けない。「初心忘るべからず」の心で、弛まぬ努力と工夫を重ね、事業に真摯に取り組む。

②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

■公演を実施する学校との連携を密にする。

■この事業に携わる学校または担当者は初めての事が多いので、丁寧な説明と密な連絡を心がけることを大切にしている。電話での連絡や確認もするが、時間、ワークショップ及び公演にあたっての連絡事項、当日の流れ、準備に関する事、当会で預かりたい書面等重要なことは、口頭ではなく簡潔で解りやすい書面(チェックリストも含む)を作成。その上で送付、届いたか確認することを心掛け、準備の不行き届き、行き違いをなくし学校側の負担を最小限にし、且つ舞台設営撤去にかかる時間等に不満がないように徹底する。また、暑い、寒いなど鑑賞環境にも心を配る。

■事前の指導などに活用できるよう、先生用のテキスト「能楽の手引き」を事前に無償配布(※詳細は「No.4別添①～②」へ)

■体育館での能舞台設営及び撤去にかかる所要時間と経費はコンパクトに行う

・「午前に公演を行うが、午後の授業で体育館を使用したい。」という意向を持つ学校が多い。当会では、舞台設置、舞台撤去ともに30分～40分程度で行う事が可能だ。体育館に能舞台を作り、普段とは違う雰囲気を感じてもらえる事を大切にしつつ、出来る限り会場設営にかかる経費を最小限におさえた。多くの学校で公演できればと工夫した。

■「小学校低学年でも解る能楽」を目指し、ワークショップの内容充実を計る。

・オリジナルキャラクター「にゃんあみ」をテキストや動画に登場させてナビゲーターとする。

・動画「にゃんあみの能楽堂案内」で、会場の能楽師と掛け合いながら、能楽堂を探検する。

・簡単な「能面のペーパークラフト」で、各自それぞれの能面を作成。能面の視野を体験。

・テキストに「にゃんあみポイント」、「能楽ドリル」など解りやすく印象に残るコーナーを作る。

・ストーリーの理解にオリジナルのまんがを作成。

・当日配布のプログラムにおいてもテキストから続く「にゃんあみポイント」や能の各場面をイラストで解りやすく紹介。(※詳細は「No.4別添③」へ)

本事業に対する
取り組み姿勢、および
効果的かつ円滑に実施
するための工夫

【能楽・能装束について】

能の登場人物は能面を付け（顔面の場合もある）、能装束を付ける。これらをもとの顔に組み合わせ、どの様に観るかは、視線によって決まっております。その後の性格も表現されます。

【実】は表情豊かな？能面について

日本の三大能楽、能楽・文楽・歌舞伎を併せていっても、能面は唯一の表情豊かな顔面である。能面は、能楽の顔面であり、歌舞伎の顔面ではない。能面は、能楽の顔面であり、歌舞伎の顔面ではない。能面は、能楽の顔面であり、歌舞伎の顔面ではない。

【色】能面は表情豊かな？

能面は、能楽の顔面であり、歌舞伎の顔面ではない。能面は、能楽の顔面であり、歌舞伎の顔面ではない。能面は、能楽の顔面であり、歌舞伎の顔面ではない。

もし、途中で退席したら…笛や鼓の音色に耳を傾けてみる。豪華な能装束の美しい文様や色を眺めるのも一つです。能面は例えられように本当に無表情でしょうか。様々な角度から楽しむことができ、自分は何を感じるか。心と対話できる事もその魅力です。

【大鼓】
おおつづみ

「おおつづみ」とも呼ばれる。小鼓とは逆に手を組んで演奏する。大鼓は、能楽の顔面であり、歌舞伎の顔面ではない。大鼓は、能楽の顔面であり、歌舞伎の顔面ではない。

【太鼓】
たいこ

能楽の演奏は高さを保つために、太鼓の演奏は平座を使う。太鼓は、能楽の顔面であり、歌舞伎の顔面ではない。太鼓は、能楽の顔面であり、歌舞伎の顔面ではない。

【土蜘蛛】の装束について。

【土蜘蛛】の装束は、能楽の顔面であり、歌舞伎の顔面ではない。土蜘蛛の装束は、能楽の顔面であり、歌舞伎の顔面ではない。

↑4ページ～5ページ

本事業に対する
取り組み姿勢、および
効果的かつ円滑に実施
するための工夫内容

日本各地に残る土蜘蛛伝説を知る。

源頼光の伝説は、能楽の顔面であり、歌舞伎の顔面ではない。源頼光の伝説は、能楽の顔面であり、歌舞伎の顔面ではない。

能「土蜘蛛」を知る 「妖怪退治」という劇的で明瞭な設定とシテが蜘蛛の糸を次々と繰り出す鮮やかな演出の世。題材は日本各地に伝わる「土蜘蛛伝説」で、物語の背景は日本の風土や歴史と深く関わっています。伝説を更に深く調べるもよし、伝説の地を旅するもよし。能の深し方は無限です。

能「土蜘蛛」の題材となった伝説を知る。

源頼光の伝説は、能楽の顔面であり、歌舞伎の顔面ではない。源頼光の伝説は、能楽の顔面であり、歌舞伎の顔面ではない。

能「土蜘蛛」の舞台を知る。

源頼光の伝説は、能楽の顔面であり、歌舞伎の顔面ではない。源頼光の伝説は、能楽の顔面であり、歌舞伎の顔面ではない。

↑6ページ～7ページ

リンク先

No.4

【公演団体名

皐風会

】

実施した学校の子供たち、先生、保護者の方々から、心温まる感想文や電話、手紙がよく届く。愛情と熱意が伝わってきたという声も頂く。大きな励みにしている。当会は大きな団体ではないが、能楽を守りたい、普及したいという気持ちはどこにも負けない。「初心忘るべからず」の心で、事業に真摯に取り組みたいと考えている。《過去の同事業写真より》



項目内容



↑この事業の体験後、生徒が卒業制作で彫った「能面」とのこと。

